

2026.08.26

各位

「新しい」FCI 試験規程 2025 の導入後、VDH からは、実施規定について補足や変更が繰り返し出されています。最近の事例としては「1m 障害＋持来」および「板壁＋持来」の課目におけるマーキング方法の変更などがあります。

これらに関連して、審査員やハンドラーの方々から、実施方法、規定、内容について多くの質問が私のところに寄せられています。

そこで今回、作業犬委員会委員長 Klaus-Jürgen Glüh 氏との確認を行った、以下のいくつかの質問について明確に回答いたします。

【首輪の着用義務】

試験規程によると、追求作業および BH/IBGH を除き、一列構造で、ゆるく装着された大きなリンクのチェーンカラーが必要です。

法律で義務付けられている国では、犬の首が締まらないよう、チェーンカラーには締まり止め（Zugstopp）が付いていなければなりません。

VDH が公開している「新しい」試験規程に関する資料（2024 年 12 月版）には、

- ・ 締まり止めのない一列のチェーンカラー
- ・ 締まり止め付きの一列のチェーンカラー

「獣医当局から指示がある場合」との注記付き

の両方が掲載されています。

その写真の中には、カラビナフック付きの首輪も掲載されています。

【質問】

管轄の獣医当局から特別な指示がない場合でも、試験においてカラビナフック付きの一列のチェーンカラーを使用することは可能ですか？

【回答】

はい、可能です。

試験規程では、締まる機能を持つ首輪は義務付けられていません。

もちろんチェーンカラーを使用する場合は、きつく装着されていないこと、またカラビナに動物福祉上問題となるような改造が施されていないことに注意する必要があります。

さらに、法律上の規定は常に試験規程より優先されることを付け加えておきます。

VDH 委員会は、次回の「試験規程に関する情報」の更新時に、この点を明確にする予定です。

【持来ダンベルの置き直し】

当初の FCI 試験規程 2025 では、投げたダンベルが遠すぎたり、近すぎたりした場合、アシスタントがマーキングされた範囲の中央にダンベルを置くことになっていました。

また、

- ・ 平地での持来
- ・ 1m 障害を越えての持来

では、アシスタントはダンベルを置き直す前に、一度ダンベルを持ち上げて見せることになっていました。

現在は、アシスタントがダンベルをマーキング範囲の中央に置くのではなく、ダンベルがマーキング範囲から出た地点、または最も近いマーキングライン上の地点に置くことになっています。

【質問】

平地での持来および 1m 障害を越えての持来において、アシスタントはダンベルを置き直す前に、新ルールとなった現在も一度ダンベルを持ち上げなければなりませんか？

私は複数の全国規模の大会で、この扱いが統一されていないのを見ました。

また、この規定はすでになくなったとも聞いています。

【回答】

この点について FCI 委員会で議論されたことはなく、試験規程も変更されていません。

試験規程によれば、ダンベルは一度短く持ち上げなければなりません。

【BH/VT 試験への参加】

質問：

私の理解では「苦痛を伴う繁殖（Qualzucht）」に該当するフレンチ・ブルドッグは、BH 試験に参加できますか？

また、その後 Agility や Hoopers などに参加することはできますか？

【回答】

ドイツの動物保護・犬飼育規則

（Tierschutz-Hundeverordnung）によると、「Qualzucht」に該当する犬は、展覧会だけでなく、試験イベントにも参加することができません。

残念ながら、BH 試験もこれに含まれます。

VDH では、BH/VT をこの規制の対象外とするための働きかけを行っていますが、現時点ではまだ肯定的な決定は出ていません。

【BH/VT 試験への参加】

質問：

断耳または断尾された犬は、

- ・ ブリーダーによって断耳・断尾された犬
- ・ 動物保護施設などから引き取られた犬
- ・ 外国から来た犬
- ・ 事故によって耳や尾を失った犬

などの場合、試験、特に BH 試験に参加することができますか？

【回答】

現在、断耳または断尾された犬は、原則として試験に参加することができません。

BH/VT もこれに含まれます。

以上

Wilfried Tautz

SV 訓練部長